欧州委員会、オーストリアの余剰赤ワイン蒸留に500万ユーロを拠出

需要低迷に直面する生産者の価格圧力を和らげるため、2024年産およびそれ以前の在庫を対象とする計画

2026年11月16日（月）



オーストリアは11月15日、欧州委員会が2024年産およびそれ以前のオーストリア産赤ワインを対象とする危機対応の蒸留計画に、最大500万ユーロを拠出すると発表した。余剰分を市場から取り除き、需要低迷に直面する生産者の圧力を和らげるための市場介入となる。

発表した農業省によると、この措置は蒸留によって余剰の赤ワインを市場から取り除き、国内ワイン市場の安定を図ることを目的としている。同省によれば、古い赤ワインの在庫が売りにくい状態にあるため、オーストリアのワイン生産者は厳しい経済的圧力にさらされている。

ノルベルト・トチュニヒ農相は、今回の資金拠出により、オーストリアは供給過剰を抑え、価格圧

力に対処するための的を絞った手段を得ると述べた。同省は、この計画について、ワイン生産事業者を支援するとともに、国内ワイン産業の長期的な安定に向けた一歩になると説明した。

オーストリアワイン生産者協会もこの提案を支持した。同協会のヨハネス・シュムッケンシュラーガー会長は、需要がほとんどない古い赤ワインを今も保管している生産者が多いと述べた。この措置は在庫削減と価格圧力の緩和に役立つ可能性があるとしたうえで、事業者が求めているのは、簡素な参加手続き、補償額に関する早期の明確化、迅速な支払いだと付け加えた。

農業省が示した計画では、利用可能な資金で措置に関連するすべての費用を賄う。ワインの集荷、一時保管、蒸留施設への輸送が含まれる。残った資金はワイン生産者に直接支払われる。

農業省によると、欧州委員会は12月4日、関係委員会に規則案を提示する。この案では、計画の正式な条件や運用上の詳細、制度に基づいてワインを提供した生産者が受け取れる価格が示される見通しだ。

実施にあたり、オーストリアは2020年に用いられた危機対応の蒸留計画に近い方式を採用する見込みだ。まず大規模な集荷拠点にワインを集め、その後、まとまった単位で蒸留施設に輸送する。

この措置が重要なのは、ブドウ畑の経営収支だけにとどまらない。危機対応の蒸留は、市場から余剰供給を取り除くことを目的としている。計画どおりに進めば、ワイン価格への圧力を和らげ、飲料取引全体への負担を軽減する可能性がある。一部の分野で供給過剰が続けば、在庫や利益率、仕入れ判断にも影響しかねない。

オーストリアの発表では、生産者が申請できる時期や支払い開始時期について、日程は示されなかった。12月に欧州委員会が規則案を公表した後、こうした点が明らかになる見通しだ。